

## 障害のある人への継続的な就労支援を行うための「できること」についての情報構築

### — 特別支援学校の教員と保護者の連携の下での「できますシート」の書式の検討 —

#### The Information System of the Competency (“Dekiru”) Archives of the Individuals with Disabilities for Seamless Support of Working

#### -An Empirical Study about the Format and Function of “Able (Dekimasu) sheet” under the Collaboration of Special Education School Teacher and Parents-

○林 炫廷\* ・ 太田 隆士\*\* ・ 中鹿 直樹\*\* ・ 望月 昭\*\*

Hyunjung LIM, Takashi OTA, Naoki NAKASHIKA, and Akira MOCHIZUKI

立命館大学政策科学研究科\* 立命館大学応用人間科学研究科\*\*

\*Graduate School of Policy Science Ritsumeikan University;

\*\*Graduate School of Science for Human Services, Ritsumeikan University

Key words: 継続的な就労支援, できることの情報構築, できますシート

### 目的

本研究における目的は2つである。目的1は、特別支援学校の高等部に通う生徒が、地域の事業所（ホームセンター）における実習を通して、どんな条件があれば生徒の「強み」や「できること」が出現するのかを観察し、それらのできることの過程を詳細に記録することであった。また、できることを三項随伴性の枠組みを用いて表現することで、記録の機能性が高まるかどうかについて検討することも目的とした。目的2は、「できる」情報を次の支援者（教員や保護者）に伝達するために、情報移行の書式を試作し評価することであった。そして、特別支援学校の教員と協働で作成したできる情報の書式である「できますシート」が、どれほど機能的であるのかを検討するため、教員と保護者を対象に、次の活動・実習場面における具体的な行動目標、および実習内容の計画案を記述してもらうことを目的にした。

### 方法

#### 実践研究1

##### 参加者

B特別支援学校高等部1年に在籍している軽度の知的障害と自閉症を持つ男子生徒Cさんであった。

##### 手続き

実習に当たって対象生徒が作業をしている中にできたことの行動観察記録を取った。「できること」を発見するための記録の方法として、先行刺激、行動、結果の項目に従って、記録を取った。その後、実習記録を「できますシート（三項随伴性の書式）」に集約し整理した。シートは、どんな条件があれば、対象生徒はできるのか、周囲の変化の結果について、作業場面において「行動を起こす状況」「対象生徒の行動」「周りの反応や事物の変化」の三項随伴性の項目を用いて分析してまとめた。

#### 実践研究2

##### 参加者

B特別支援学校のF、G、H、Iの教員4名、対象生徒の保護者（E）1名、合計5名であった。「できますシート」の書式改善の過程に参加した教員は、F、H、Jの3名の教員である。

##### 手続き

H、F、J教員に三項随伴性の情報シート（以下「できますシート」）についての概要、目的など説明を行った。その後、上記の教員と「できますシート」の情報の書式について、同様に打ち合わせをして、「できますシート」を改善した。完成できた「できますシート」について、4名の教員と保護者1名を対象に、シートの説明やCさんの実習の報告を行った。その後、参加者にCさんの次の展開のために、「できますシート」の情報を手がかかりにして、行動目標と新しいアイデアを記述するようお願いをした。

**インフォームドコンセント** B特別支援学校に研究の目的と手続きの願案の説明を時間を設けて行った。さらに、研究の目的・期間・手続きを記入した書類を支援学校に提出した。保護者も学校から添付し、許可を取った。

### 結果と考察

実践研究1においては、実習場面で、記録を取ることによって、対象生徒の多く「できること」の可能性を発見することができた。また、できる可能性を蓄積するために「できますシート」にまとめた。実践研究2において、参加者に情報を伝達していく過程では、ケース会議を通して教員とのやり取りができ、連携を持つことができた。連携の成果として、教員と協働作業で「できますシート」の書式の改善ができた。特に、「できますシート」は、対象生徒の情報を次の支援者に伝達していく際に、使用するもので、実習を通して学んだ「できたこと」が、生徒の機能的な行動として捉え「できること」をまとめて一般的な表現をしておくことが、次の展開を考えることに役に立つと考えられた。また、「できたこと」を機能的にまとめて「できること」に書けたことは、ある意味繰り返し確認できたことであり、「できたこと」の中にはまだ疑問が残る場合もあり、そこで、「確認したいこと」という欄を設けることが必要であることが打ち合わせ中に示唆された。その他、「できますシート」の書式に情報を集約することによって、次の支援計画や生徒の行動目標の設定を多く考えることができた。対象生徒のできる情報が記録され、蓄積し、次の人に伝達していくといった情報移行システムは、継続的な就労支援の重要な役割を持つことであると示唆された。